広陵町制施行70周年記念式典

五輪3連覇の野村さんが記念講演
ソプラノ歌手、有田さんは歌声披露

広陵町は11月30日、同町笠の広陵中央公民館かぐら姫ホールで、町制施行70周年記念式典を開催した。式典には堀井巌外務副大臣や県内市町村の首長、町民ら約350人が参加。動画で町の歴史や産業、観光など70年の町の歩みを振り返りながらこれからの町の発展について思いを馳せた。また高市早苗首相からのビデオメッセージが寄せられたほか、町出身でオリンピック3連覇を達成した元柔道家の野村忠宏さんの記念講演も行われた。

2部構成で開催した式典は平成6(1994)年に結成した「広陵金明太鼓」の演奏で開幕。国家斉唱に続き、町内で活動する3団体が、キダ・タローさん作曲の町歌を披露した。

その後、昭和30(1955)年に旧馬見町、瀬南村、百済村の合併で広陵町が誕生してからの町の70年の歩みをまとめた15分の動画を上映。町章の選定、真美ケ丘ニュータウン起工式、かぐや姫ホールの竣工などを時代順に紹介した。

吉村裕之町長は新ためて町の歴史を振り返り「真美ケ丘地域と、西部、東部、北部地域手の住宅開発により現在3万4800人を超える、奈良県でもっとも人口が多い町になった。70周年を機に子どもの笑顔があふれる元気なまちづくりを、町民の皆さまと共に進めていきたい」と式辞を述べた。

祝辞では高市首相が町制70周年へ寄せたビデオメッセージを放映。高市首相は「広陵町は子育て世代が住みやすい町と言われています。日本全体が人口減少に直面する中、近年でも人口規模が維持されているのはすごいことです。高市内閣では若者や女性を含め、多くの人が地方に住み続けることを目指しています。広陵の取り組みも参考にしながら施策を進めていきたいと思っています」と語った。

また、1部の最後には町の発展に尽力した山村吉由前町長と、松井宏之前副町長に特別表彰が送られた。

2部では広陵中学校、真美ケ丘中学校のコーラス部と、ソプラノ歌手の有田輝子さんが町イメージソング「広き陵(おか)」を熱唱。有田さんは町のイメージキャラクター「かぐやちゃん」のファンになったことをきっかけに、町を訪れ地域のイベントなどに参加している。また「かぐやちゃん」のイメージソングの作詞作曲も手掛けた他、昨年度末に募集した「70周年記念キャッチフレーズ」にも応募している。

その後は、野村さんが登壇して記念講演を実施。自身の柔道人生の原点になった祖父の作った柔道道場で学んだ「柔道が楽しい、柔道が好き」という思いを語り、柔道一家に生まれたからと柔道を強制されることがなく、サッカーや野球、水泳などに取り組み、それらと比べた上で「柔道が一番」という結論に至ったと話した。

また、中学校の最初の大会では同級生の女の子に負けたことを明かし、自分に厳しい練習メニューを課して柔道に取り組み続けたが成績が著しくなかったと話す。

転機が訪れたのは天理大学2年生の時。大学で指導にあたっていたロサンゼルスオリンピックの柔道60㌔級で金メダルを獲得した細川伸二先生からの「練習を頑張っているが、その練習では強くなれない」の言葉だったと振り返った。

それまで試合のように相手と戦う「乱取り」を週6回、1日に6分12本の練習をメインに行っていた。それに対して細川先生が「ペース配分をしながら6分12本をこなす練習を頑張っているだけ。試合というのは自分の全力を出し切るもので、与えられたメニューをやらされる練習、そしてペース配分しながらこなす練習をしていてトップを目指せる選手になれるほど甘くない」と指摘を受けた。

それからは6分の1本で全てを出し切る意識で取り組む練習に切り替え、これまでの6分で12本にこだわる練習をやめた。漠然と頑張っていたものを、自分が強くなるための明確な目的意識を考える練習に取り組むようになった。

野村さんは大学1年で校内予選で何回負けたかも覚えてない程だったが、大学2年になると全日本の学生チャンピョンになり、大学4年でオリンピックで金メダルを獲得するほどの成長を見せた。

最後に「心躍る自分が夢中になれることを持つことが幸せ。笑顔になれる行動やコミュニケーションが明るいまちづくりにつながるし、それが子どもたちにも伝わる。自分自身を大事にしながら、笑顔で生活してもらいたい。また子どもたちを長い目で見守り、いろんなことにチャレンジできる町であってほしい」と締めくくった。

広陵金明太鼓の演奏で式典が開幕

町内を拠点に活動する3団体が町歌を披露した

町制70周年へ寄せた高市首相のビデオメッセージを放映

町の発展に尽力した山村前町長と、松井前副町長に特別表彰が送られた

「子どもの笑顔があふれる元気なまちづくりを進めていきたい」と語る吉村町長

野村さんの記念講演では、自身の柔道人生が語られた

広陵、真美ケ丘中学校のコーラス部と、ソプラノ歌手の有田さんが町イメージソングを熱唱